



20:1 たまたまそこに、よこしまな者で、名をシェバという者がいた。彼はベニヤミン人ビクリの息子であった。彼は角笛を吹き鳴らして言った。「ダビデのうちには、われわれのための割り当て地はない。エッサイの子のうちには、われわれのためのゆずりの地はない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕に帰れ。」

20:2 すべてのイスラエルの人々は、ダビデから離れ、ビクリの子シェバに従って行った。しかし、ユダの人々はヨルダン川からエルサレムまで、自分たちの王につき従って行った。

20:3 ダビデはエルサレムの自分の王宮に入った。王は、王宮の留守番に残しておいた十人の側女をとり、監視つきの家を与えて養ったが、彼女たちのところには通わなかった。彼女たちは、一生、やもめとなって、死ぬ日まで閉じ込められていた。

20:4 王はアマサに言った。「私のために、ユダの人々を三日のうちに召集し、あなたも、ここに帰って来なさい。」

20:5 アマサは、ユダの人々を召集するために出て行ったが、指定された期限に間に合わなかった。

20:6 ダビデはアビシャイに言った。「今や、ビクリの子シェバは、アブサロムよりもっとひどいわざわいを、われわれに仕掛けるに違いない。あなたは、主君の家来を引き連れて彼を追いなさい。さもないと、彼は城壁のある町に入って、逃れてしまうだろう。」

20:7 ヨアブの部下、クレタ人、ペレテ人、そしてすべての勇士たちは、アビシャイの後に

続いて出て行った。彼らはエルサレムを出て、ビクリの子シェバの後を追った。

20:8 彼らがギブオンにある大きな石のそばに来たとき、アマサが彼らの前にやって来た。ヨアブは自分のよろいを身に着け、さやに収めた剣を腰の上に帯で結び付けていた。彼が進み出ると、剣が落ちた。

20:9 ヨアブはアマサに「兄弟、おまえは無事か」と言って、アマサに口づけしようとして、右手でアマサのひげをつかんだ。

20:10 アマサはヨアブの手にある剣に気がついていなかった。ヨアブは彼の下腹を突いた。それで、はらわたが地面に流れ出た。この一突きでアマサは死んだ。ヨアブとその兄弟アビシャイは、ビクリの子シェバの後を追った。

20:11 ヨアブに仕える若者の一人がアマサのそばに立って言った。「ヨアブにつく者、ダビデに味方する者は、ヨアブに従え。」

20:12 アマサは大路の真ん中で、血まみれになって転がっていた。この若者は、兵がみな立ち止まるのを見て、アマサを大路から野原に運んだ。そして、その傍らを通る者がみな立ち止まるのを見ると、彼の上に衣を掛けた。

20:13 アマサが大路から移されると、みなヨアブの後について進み、ビクリの子シェバを追った。

ダビデには見習うべき多くのすばらしい点がありました。一方（もしかしたら晩年になって）信仰的な弱さも露呈しました。アブサロムの扱い、王国と私情の混同、人を見抜く目などです。またここにきてユダとイスラエルの反目はシェバの反乱という形になり、もはやダビデの指導力は限界

がきました。アマサは信頼できず、ヨアブは勝手にアマサを殺します。

このような事態に陥ったとき、信仰者は何よりも人に付くよりも、神様のみこころを求めなければなりません。混乱の中で自分自身も危険という中で、本当に頼れるのは神様だけなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

